

琉球大学医学部規程

(昭和 56 年 3 月 31 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、琉球大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、琉球大学医学部（以下「医学部」という。）の授業科目、単位、授業時間、履修方法その他必要な事項を定める。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第 1 条の 2 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（学科及び講座）

第 2 条 本学部に、次の学科及び講座を置く。

医学科

保健学科 基礎看護学、成人老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学

（教育研究上の目的）

第 2 条の 2 医学部の教育研究上の目的及び医学科、保健学科の人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。

医学部

(1) 島嶼環境にある沖縄県のおかれた自然的・地理的条件並びに歴史的背景をふまえ、地域医療を充実させる。

(2) 国民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として発展させ、東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力に寄与する。

医学科

医学に関する専門の学術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応しうる医師、研究者を育成する。

保健学科

保健学に関する専門の学術を修得し、生命を尊重する思いやりを持った、地域社会並びに国際社会に貢献する保健医療専門職者を育成する。

（共通教育等の授業科目の種類等）

第 3 条 共通教育及び専門基礎教育（以下「共通教育等」という。）の授業科目の種類、単位数及びその履修方法は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

（専門教育の授業科目等）

第 4 条 各学科の専門科目の種類、単位数、授業時間数及び履修方法については、別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

（単位の計算方法）

第 5 条 専門教育の授業科目の単位の計算方法は、次のとおりとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験及び実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験又は、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数 3（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数 1.5）、実験及び実習については係数 1（ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数 1.5）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。

（授業科目の公示）

第 6 条 各学科の各学期に開設する授業科目、単位数、授業時間数及び担当教員は、各学期の始めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、開講 1 週間前までに公示する。

（登録・試験及び成績評価）

第 7 条 医学科及び保健学科の共通教育等の科目並びに保健学科専門科目の登録、試験及び成績評価については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

2 医学科専門科目の試験、履修及び進級については、別に定める。

（臨床実習履修条件）

第 8 条 医学科の臨床実習を履修できる者は、専門科目のうち、別に定める授業科目の試験に合格し、共用試験実施機構が行う共用試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination, CBT：Computer Based Testing）に合格した者でなければならない。

（関連教育病院）

第 9 条 医学科は、関連教育病院において学生の臨床実習の一部を行なわせるものとする。

2 前項の臨床実習に関する必要な事項は、別に定める。

（卒業の要件）

第 10 条 卒業するには、医学科にあつては本学に 6 年以上（学則第 29 条の 2 第 2 項の規定に基づく医学科の第 2 年次及び第 3 年次特別編入学者の卒業要件は、第 2 年次特別編入学者は 5 年以上、第 3 年次特別編入学者は 4 年以上）在学し、別表 3 に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験及び Advanced OSCE に合格しなければならない。

2 保健学科にあつては本学に 4 年以上在学し、別表 4 に定める単位の修得並びに専門科目を履修しなければならない。

(卒業の判定)

第11条 卒業の判定は、教授会が行う。

(各種免許)

第12条 保健学科の学生で、各種の免許状を取得しようとする者は、当該免許にかかる所要の単位を別表5のとおり修得しなければならない。

(指導教員)

第13条 学生の勉学その他の相談に応じるため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

附 則 (略)

附 則 (平成10年11月4日)

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行し、平成17年3月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年7月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

別表1

医学科専門科目の種類及び授業時間数

(1) 専門教育科目

授 業 科 目	授 業 時 間 数	備 考
解剖学総論	28	
肉眼解剖学	164	
組織解剖学	96	
神経解剖学	50	
生理学Ⅰ	98	
神経生理学	112	
生化学	126	
遺伝医学	48	
発生再生医学	28	
病理学Ⅰ	88	
病理学Ⅱ	88	
細菌学	64	
寄生虫学	48	
ウイルス学	48	
免疫学	60	
薬理学	128	
衛生学・公衆衛生学	88	
法医学・医事法	56	
生命科学	28	
医科認知情報科学	18	
病理総合学	42	
医療情報学	14	
基礎研究	144	
キヤリア教育	14	
症候とその評価	26	
治療学	24	
消化器系	54	
麻酔医学	32	
呼吸器・胸壁・縦隔系	42	
女性生殖器系	62	
歯・顎・口腔系	24	
腎・泌尿器系	50	
循環器系	68	
運動器系	52	
精神医学	42	
内分泌系	26	
皮膚結合組織系	40	
膠原病・リウマチ病学	8	
神経医学	40	
血液学	22	
感覚器系(耳)	34	
感覚器系(眼)	30	
感染症学	40	
代謝学	20	
救急医療系	32	
小児医学	56	
放射線医学	34	
臨床薬理学	24	
地域医療/プライマリ・ケア	16	
体験学	8	
離島地域病院実習	40	
総合講演	42	
特別演習	28	
TBLチュートリアル	120	
BP	39	
臨床実習	2,720	
合 計	5,573	

(2) 基礎教育科目

必修・選択 の 別	科目番号	授業科目	単 位
必修	医 1 0 1	外来患者付添い実習	1
	医 1 0 2	シミュレーション演習	2
	医 2 0 5	医学概論 B	2
	医 5 0 3	医学外国語	2
	医 5 0 5	東洋医学概説	1

(3) 第2年次編入学生に対する特化授業科目

必修・選択 の 別	科目番号	授業科目	単 位
必修		熱帯医学・国際保健医学	1

別表1 保健学科 専門教育科目の種類・単位数・授業時間数

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	学期
一 年 次	保 I 100	シミュレーション演習	2	(0-4)	1	前
	保 I 101	生命倫理学	1	(1-0)	1	前
	保 I 102	早期体験実習	1	(0-3)	1	前
	保 I 103	看護学概論	2	(2-0)	1	後
	保 I 104	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	後
	保 I 105	保健関係法規	1	(1-0)	1	後
	保 I 106	生活援助看護技術 I	3	(1-4)	1	後
	保 I 107	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後
	保 I 108	国際環境保健学	2	(2-0)	1	後
保 I 120	看護英語文献講読	1	(1-0)	1~4	後	
二 年 次	保 I 201	生化学実習	1	(0-3)	2	前
	保 I 202	基礎臨床化学	2	(1-3)	2	前
	保 I 204	疫学	2	(2-0)	2	前
	保 I 205	地域看護学	2	(2-0)	2	前
	保 I 231	地域アセスメント	1	(1-0)	2	前
	保 I 206	地域アセスメント実習	1	(0-3)	2	前
	保 I 207	解剖学・組織学	2	(1-3)	2	前
	保 I 208	生理学	2	(1-3)	2	前
	保 I 209	生化学	2	(2-0)	2	前
	保 I 210	免疫学	1	(1-0)	2	前
	保 I 211	病態生理学	2	(2-0)	2	前
	保 I 212	生活援助看護技術 II	3	(1-4)	2	前
	保 I 213	生活援助看護技術実習 II	2	(0-6)	2	前
	保 I 224	フィジカルアセスメント	1	(1-0)	2	前
	保 I 214	医用電子工学	3	(2-2)	2	後
	保 I 215	臨床心理学	2	(2-0)	2	後
	保 I 216	栄養学	2	(2-0)	2	後
	保 I 217	薬理学	2	(1-3)	2	後
	保 I 218	微生物学	2	(1-3)	2	後
	保 I 219	病理学	2	(1-3)	2	後
	保 I 220	症候病態論	2	(2-0)	2	後
	保 I 221	母性看護学	2	(2-0)	2	後
	保 I 222	成人看護学	2	(2-0)	2	後
	保 I 223	高齢期看護学	2	(2-0)	2	後
	保 I 225	外来看護実習	1	(0-3)	2	後
	保 I 226	高齢期看護実習 I	1	(0-3)	2	後
	保 I 227	島嶼地域看護論	2	(2-0)	2	後
保 I 250	分子生物学入門	1	(1-0)	2	後	
保 I 260	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	後	
保 I 270	遺伝看護学	1	(1-0)	2	後	
三 年 次	保 I 301	技術卒業研究 I	4	(0-12)	3	前後
	保 I 302	医動物学	1	(1-0)	3	前
	保 I 303	医動物学実習	1	(0-3)	3	前
	保 I 304	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	前
	保 I 305	保健技術学実習 I	2	(0-6)	3	前
	保 I 306	臨床血液学	2	(1-3)	3	前
	保 I 307	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	3	前
	保 I 308	臨床検査総論	2	(1-3)	3	前
	保 I 309	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	前
	保 I 310	保健統計学	2	(1-1)	3	前
	保 I 350	R I 検査技術学	2	(2-0)	3	前
	保 I 351	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	前
	保 I 352	健康食品学	1	(1-0)	3・4	前
	保 I 314	小児看護学	2	(2-0)	3	前
	保 I 315	精神看護学	2	(2-0)	3	前
	保 I 316	家族看護学	2	(2-0)	3	前
	保 I 317	周産期学	2	(2-0)	3	前
	保 I 318	助産の理論	2	(2-0)	3	前
	保 I 319	カウンセリング論	2	(2-0)	3	前

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	学期
三 年 次	保 I 320	母性看護実践学	2	(1-2)	3	前
	保 I 321	高齢期看護実践学	2	(1-2)	3	前
	保 I 322	高齢期看護実習 II	2	(0-6)	3	前
	保 I 323	公衆衛生看護実践学 I	2	(1-2)	3	前
	保 I 324	緩和ケア論	1	(1-0)	3	前
	保 I 325	がん看護論	1	(1-0)	3	前
	保 I 346	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	前
	保 I 326	養護概説	2	(2-0)	3	前
	保 I 355	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	3	前
	保 I 356	感染看護学	1	(1-0)	3・4	前
	保 I 327	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	後
	保 I 328	保健技術学実習 II	2	(0-6)	3	後
	保 I 329	臨床化学 I	3	(2-3)	3	後
	保 I 330	臨床化学 II	2	(2-0)	3	後
	保 I 331	臨床生理学 II	3	(3-0)	3	後
	保 I 332	臨床免疫学	2	(1-3)	3	後
	保 I 334	食品衛生学	2	(2-0)	3	後
	保 I 335	小児看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保 I 336	母性看護実習	2	(0-6)	3	後
	保 I 337	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保 I 338	精神看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保 I 339	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保 I 340	救急・災害援助	1	(0-2)	3	後
	保 I 341	学校保健学	2	(2-0)	3	後
	保 I 342	公衆衛生看護実践学 II	2	(1-2)	3	後
	保 I 343	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	後
	保 I 344	在宅看護実習	2	(0-6)	3	後
保 I 345	助産診断・技術学 I	2	(2-0)	3	後	
保 I 347	健康教育学	2	(1-1)	3	後	
保 I 348	国際保健概論	1	(1-0)	3	後	
保 I 349	卒業研究 I	1	(0-3)	3	後	
保 I 385	助産診断・技術学 II	3	(2-2)	3	後	
保 I 386	助産管理	1	(1-0)	3	後	
四 年 次	保 I 403	病理特殊検査法	2	(2-0)	4	前
	保 I 404	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	4	前
	保 I 405	保健技術学実習 III	4	(0-12)	4	前
	保 I 406	臨床微生物学	3	(2-3)	4	前
	保 I 407	小児看護実習	2	(0-6)	4	前
	保 I 408	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	前
	保 I 409	精神看護実習	2	(0-6)	4	前
	保 I 410	急性期看護実習	2	(0-6)	4	前
	保 I 411	公衆衛生看護実習 I	4	(0-12)	4	前
	保 I 412	助産診断・技術学 III	3	(1-4)	4	前
	保 I 413	助産実習 I	2	(0-6)	4	前
	保 I 414	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	前
	保 I 415	看護統合実習	2	(0-6)	4	後
	保 I 418	卒業研究 II	2	(0-6)	4	前後
	保 I 419	技術卒業研究 II	4	(0-12)	4	前後
	保 I 420	画像診断学	2	(2-0)	4	後
	保 I 421	公衆衛生看護管理	2	(1-2)	4	後
	保 I 422	助産実習 II	8	(0-24)	4	後
	保 I 423	助産統合実習	1	(0-3)	4	後
	保 I 424	臨床看護技術の統合	1	(0-1)	4	前
	保 I 425	養護実践演習	1	(0-1)	4	後
保 I 426	養護実習	4	4週間	4	後	
保 I 429	総合検査学	2	(2-0)	3・4	前	
保 I 430	教職実践演習(養護教諭)	2	(0-2)	4	後	
保 I 480	公衆衛生看護実習 II	1	(0-3)	4	後	

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
	選	保 I	100	シミュレーション演習	2	(0-4)	1	前	医療現場で遭遇する様々な状況をシミュレーションで再現して、実際に患者や家族と関わる医療者としての知識・技術・態度を学習する。患者や家族との良好な関係を築くためのコミュニケーション技術や、患者や患者の置かれている環境について理解するための五感を使った医療者の感性を養うため、各演習でシミュレーションして患者や家族とどのように対話し、対応するのかをともに考える。
必	必	保 I	101	生命倫理学	1	(1-0)	1	前	保健医療における生と死の倫理的問題について考える。
必	必	保 I	102	早期体験実習	1	(0-3)	1	前	保健医療の現場における早期体験を通して専門科目への動機づけを行う。
必	選	保 I	103	看護学概論	2	(2-0)	1	後	看護の歴史、看護学の概念、看護の対象である人間・健康・環境について理解する。また、看護実践の理論的枠組みについて事例を通して学ぶ。
必	必	保 I	104	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	後	保健・医療・福祉の基本理念と制度を理解し、関係職種相互の連携について学ぶ。行政組織を理解し、保健医療福祉計画の企画および評価について実践的に学び、保健医療サービスの提供に関する制度的しくみを体系的に学ぶ。健康に係る政策形成過程を事例を用いて学ぶ。
選	必	保 I	105	保健関係法規	1	(1-0)	1	後	保健医療福祉に関する基本法令、関係法令について学ぶ。
必		保 I	106	生活援助看護技術 I	3	(1-4)	1	後	看護に共通な基本技術、日常生活援助看護技術、コミュニケーションについて学ぶ。
必		保 I	107	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後	入院している対象者を全人的に理解し、日常生活援助技術を実践的に学ぶ。
必	必	保 I	108	国際環境保健学	2	(2-0)	1	後	自然生態系と人間、有害環境因子、地球温暖化と環境・健康問題について国際的な視点で講義する。
選	選	保 I	120	看護英語文献講読	1	(1-0)	1-4	後	国際的視野を広め、時代に対応した看護学の理解を深めるよう看護研究に必要な英文の看護文献、原著論文を邦訳し、それをもとにクリティカルシンキングを学ぶ。
選	必	保 I	201	生化学実習	1	(0-3)	2	前	生体諸物質の性質と機能や分離・測定法について学ぶ。
選	必	保 I	202	基礎臨床化学	2	(1-3)	2	前	臨床化学の基礎となる分析の理論を学習し、器具・機器による基本的実践を行う。さらに得られたデータの解析が十分できるようにする。
必	必	保 I	204	疫学	2	(2-0)	2	前	人間集団の中で出現する健康関連事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を包括的に考究し、健康増進や疾病予防のあり方について学ぶ。
必	選	保 I	205	地域看護学	2	(2-0)	2	前	地域で生活する人びとに対する看護の基本を学び、公衆衛生看護（行政）、在宅看護、産業看護、学校看護の基本的な理念・目標・技術を学ぶ。また、母子から高齢者までの住民の多様なニーズに対応できる地域の社会資源、関係機関について学び、地域看護活動を展開するための基本的知識、技術を学ぶ。
選	選	保 I	206	地域アセスメント実習	1	(0-3)	2	前	地域社会の個人、家族、集団の健康の保持増進、疾病の予防、回復および地域生活への適応を援助するために人びとが生活する地域について学ぶ。「地域で生活する」人びとの日常を理解し、看護の対象者理解に役立てる。
必	必	保 I	207	解剖学・組織学	2	(1-3)	2	前	人体の肉眼的構造と微細構造について基本的な事柄を講義で学ぶ。重要な器官については系統解剖実習と顕微鏡実習により理解を深める。
必	必	保 I	208	生理学	2	(1-3)	2	前	生理学は、生命現象のメカニズム、調節機構を理解する学問である。人体に見られる種々の生命現象のメカニズムについて、個々のシステムの働きと身体全体としての調節の働きと両面から講義する。基本的な検査技術を用いた実習を行なう。実習の結果をまとめレポートを作成する。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
必	必	保 I	209	生化学	2	(2-0)	2	前	生化学の基本的事項である、(1) 人体を構成する基本物質の構造と機能、(2) それら基本物質の代謝、(3) それら基本物質の代謝異常と病気の関連について、分子論的観点から学ぶ。
選	必	保 I	210	免疫学	1	(1-0)	2	前	細菌やウイルスなどの微生物が体内に侵入することによって引き起こされる免疫反応について、これに関わる細胞群とサイトカインなどの液性因子が織りなす生体反応として捉え、さらに過剰な免疫反応（アレルギー）と免疫不全状態についてもこれら生体反応の異常として理解できるよう講義する。
選	必	保 I	211	病態生理学	2	(2-0)	2	前	頻度の高い患者の訴えを取り上げ、病態の成立機序を学習する。
必		保 I	212	生活援助看護技術Ⅱ	3	(1-4)	2	前	診療・検査に伴う看護技術、指導技術、フィジカルアセスメント、事例を用いて看護過程の展開方法について学ぶ。
必		保 I	213	生活援助看護技術実習Ⅱ	2	(0-6)	2	前	生活援助看護技術、診療援助看護技術の実践を通して看護過程の展開方法について学ぶ。
選	必	保 I	214	医用電子工学	3	(2-2)	2	後	臨床検査及び医療に応用されている電子工学の理論と医用機器について学習する。
選	選	保 I	215	臨床心理学	2	(2-0)	2	後	さまざまな保健医療場面における対象者の心理学的理解と、心理アセスメント・心理療法を学ぶ。
必	必	保 I	216	栄養学	2	(2-0)	2	後	食物に含まれる栄養素の種類と役割、その体内代謝とエネルギー代謝、栄養状態の評価について学ぶ。さらに、ライフステージ別の栄養、疾患別食事療法と栄養補給法について学ぶ。
必	必	保 I	217	薬理学	2	(1-3)	2	後	医薬品の薬理作用、副作用及び臨床応用
必	必	保 I	218	微生物学	2	(1-3)	2	後	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの分類、性質、病原性、薬剤反応性などについて基本的知識を学ぶ。
必	必	保 I	219	病理学	2	(1-3)	2	後	病理学は病気の本質を明らかにする学問である。病気の原因とそれによる病的変化が発生するメカニズムを理解する。さらに病気により生じた臓器・組織の構造上、機能上の変化を学ぶ。
必	選	保 I	220	症候病態論	2	(2-0)	2	後	主な疾患の症候、病態、治療の基本を学習する。
必		保 I	221	母性看護学	2	(2-0)	2	後	母性看護の対象となる人々を理解するために必要な基本概念、看護援助に必要なリプロヘルス、人生移行などの基本理論について学ぶ。
必	選	保 I	222	成人看護学	2	(2-0)	2	後	生活者、発達段階、健康のレベルの視点から成人期である対象を捉え、ヘルスプロモーションから疾病、障害を有する人々への看護を展開する上での基礎的知識や看護理論について学ぶ。
必	選	保 I	223	高齢期看護学	2	(2-0)	2	後	ライフサイクルからみた高齢（老年）期の特徴と加齢に伴う生活の変化、健康障害の特徴について理解し、健康の保持増進、自立した生活を支援するための高齢者看護の役割について学ぶ。
必		保 I	224	フィジカルアセスメント	1	(1-0)	2	前	医学的知識に裏づけられた、フィジカルアセスメントの知識・技術を習得する。事例を用いた演習を行い、実践的なアセスメント力を養う。
必		保 I	225	外来看護実習	1	(0-3)	2	後	外来部門及び中央診療部門の特徴や看護の役割・機能を学ぶとともに、継続看護の視点から包括的な看護の役割と機能を学ぶ。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
必		保 I 226	高齢期看護実習 I	1	(0-3)	2	後	介護老人福祉施設で生活している高齢者の生活場面をとおして施設における高齢者看護の実際について学ぶ。
選	選	保 I 227	島嶼地域看護論	2	(2-0)	2	後	沖縄県の地域特性に関わる保健活動を離島の保健活動を中心に学ぶ。
選	選	保 I 231	地域アセスメント	1	(1-0)	2	前	地域に顕在、潜在する健康課題を捉えるための地域のアセスメントに関する理論、技術を学ぶ。
選	選	保 I 250	分子生物学入門	1	(1-0)	2	後	遺伝子診断技術学に必要な分子生物学の基礎について学ぶ。
選	選	保 I 260	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	後	公衆衛生看護活動の概要を学び、地域を基盤とした予防の考え方を学ぶ。顕在化した健康課題を抱える対象者のみでなく、潜在化した健康課題を抱える対象者への支援方法について対象別に学ぶ。
選	選	保 I 270	遺伝看護学	1	(1-0)	2	後	遺伝的疾患のある人および家族に対する看護支援について学ぶ。
	必	保 I 301	技術卒業研究 I	4	(0-12)	3	前後	保健諸分野の研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
選	必	保 I 302	医動物学	1	(1-0)	3	前	人間に病害を与える自然界の動物の形態、生態（感染経路、病害）、予防法について学習する。
	必	保 I 303	医動物学実習	1	(0-3)	3	前	医動物学の講義と平行し、重要事項について実習・見学を通して検査・予防方法などを習得する。
選	必	保 I 304	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	前	様々な疾病について臓器別・機能別に分類して捉え、病因・病態、診断と主な治療法について系統的に理解できることを目的として講義する。内容は序論に始まり12の臓器別・機能別疾患群からなり、各疾患群の臨床病理の基本を把握できるようになっている。
	必	保 I 305	保健技術学実習 I	2	(0-6)	3	前	臨床検査に関する実務を学内外の病院において習得する。
選	必	保 I 306	臨床血液学	2	(1-3)	3	前	臨床検査に必要な血液学および血液疾患について学習する。
選	必	保 I 307	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	3	前	検査技術管理(検体採取法や検体管理、成績の精度管理など)を含む検査管理総論と検査機器の保守管理を含む検査機器総論を学習する。
選	必	保 I 308	臨床検査総論	2	(1-3)	3	前	臨床検査に必要な知識、技術及び尿、便、血液などの一般検査について実習を行い、臨床的意義を学習する。
選	必	保 I 309	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	前	心電図検査、呼吸心機能検査、超音波検査などの臨床生理検査について、その原理と検査の実際について学習する。
選	必	保 I 310	保健統計学	2	(1-1)	3	前	人間集団を対象とした健康関連情報の種類、分布、収集方法、統計的整理、分析、評価など、統計学の基礎について学ぶ。
必		保 I 314	小児看護学	2	(2-0)	3	前	小児の成長・発達及び生活と社会・健康問題について理解し、小児看護の基本的理論と生活援助技術について学ぶ。
必	選	保 I 315	精神看護学	2	(2-0)	3	前	心や性の発達、家庭、学校、職場、地域における精神保健と援助の概要、精神障害の基礎知識について学習する。
必	選	保 I 316	家族看護学	2	(2-0)	3	前	健康問題のある患者、家族を1つのユニットと捉え、健康問題をアセスメントしアプローチするための基礎となる理論やモデル等について解説する。また、家族をテーマとする映画の分析や家族物語自作自演の集団学習を通して、多様な家族像を理解し現象を概念化できる知識と技術を学ぶ。
選	選	保 I 317	周産期学	2	(2-0)	3	前	妊婦・産婦・褥婦管理に必要な症候・病態を学ぶ。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
選		保 I 318	助産の理論	2	(2-0)	3	前	周産期における母子の健康や女性の生涯を通じた健康づくりに焦点をあて、どの時期においても最適な援助ができるよう、助産師が身につけるべき助産の基礎理論を学ぶ。
選	選	保 I 319	カウンセリング論	2	(2-0)	3	前	カウンセリングの基礎知識と基本的な技法をふまえ、学校や病院臨床その他での活用法を学ぶ。
必		保 I 320	母性看護実践学	2	(1-2)	3	前	ヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを尊重し、特に周産期の女性や家族に対する看護援助の知識・実践技術を学ぶ。
必		保 I 321	高齢期看護実践学	2	(1-2)	3	前	高齢者看護の基本的技術および日常生活援助技術、援助方法について学ぶ。
必		保 I 322	高齢期看護実習Ⅱ	2	(0-6)	3	前	療養している高齢者を包括的及び生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の健康レベルに応じた看護援助の実践について学ぶ。
選		保 I 323	公衆衛生看護実践学Ⅰ	2	(1-2)	3	前	公衆衛生看護の対象となる人々や健康課題の特徴について学ぶ。個人や家族を単位とした生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする方法や健康課題を解決・改善する方法について学ぶ。
必		保 I 324	緩和ケア論	1	(1-0)	3	前	患者をトータルペインの視点で捉え、症状の緩和とQOLの改善にむけての援助を提供するための基本的知識を学ぶ。また、終末期における看護について学ぶとともに死をめぐる倫理的課題やチーム医療についても理解を深め、看護の役割について考える。
選	選	保 I 325	がん看護論	1	(1-0)	3	前	がんに関する基礎的知識を習得し、がん患者・家族に対する援助方法について学習する。
選		保 I 326	養護概説	2	(2-0)	3	前	養護教諭の存在意義と職務の概要ならびに職務を遂行するための基本的な知識及び方法を学ぶ。
	必	保 I 327	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	後	病理組織学、細胞診断学及び病理標本、細胞標本の作製に必要な知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。
	必	保 I 328	保健技術学実習Ⅱ	2	(0-6)	3	後	臨床検査技師等の職務遂行にあたって必要とされる諸検査の技術を習得する。
	必	保 I 329	臨床化学Ⅰ	3	(2-3)	3	後	血中諸酵素、諸代謝物質、ホルモンなどの定量法、各種臓器機能検査法について講義及び実習を通して学習する。
	必	保 I 330	臨床化学Ⅱ	2	(2-0)	3	後	体液や臓器の構成成分の質的・量的変動を通して病気の発症機構を臨床生化学の面から学習する。
	必	保 I 331	臨床生理学Ⅱ	3	(3-0)	3	後	画像診断や感覚機能検査を中心として生理機能検査とその臨床的意義について学習する。
	必	保 I 332	臨床免疫学	2	(1-3)	3	後	病態の成立機序を免疫学的側面により学習する。
選	選	保 I 334	食品衛生学	2	(2-0)	3	後	細菌性を含む食中毒、食品添加物、食品汚染や食品梱包容器の材質の問題、食品の安全管理、各食品群の質とその劣化、衛生上の要点等について学ぶと共に、食品衛生法規についても理解する。
必		保 I 335	小児看護実践学	2	(1-2)	3	後	小児の健康の維持・増進・回復及びQOLの向上に必要な看護の理論と技術について学ぶ。
必		保 I 336	母性看護実習	2	(0-6)	3	後	母性看護の知識と技術を臨地実習の場を通して統合し、実践力を高める。
必		保 I 337	慢性期看護実践学	2	(1-2)	3	後	成人教育の基礎理論を土台として、疾病に関する知識（病態生理、治療法など）、疾病や症状に伴う身体的、心理社会的問題の理解と患者・家族の個性を加味した生活援助及び看護援助方法について学ぶ。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
必		保 I	338	精神看護実践学	2	(1-2)	3	後	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助方法について学習する。
必		保 I	339	急性期看護実践学	2	(1-2)	3	後	疾病や外傷、手術等により高度な侵襲を受ける急性期成壮年患者の理解を深め、適切な看護を実践するためのコミュニケーション技術、フィジカル・アセスメントを含めた看護方法について学ぶ。
選	選	保 I	340	救急・災害援助	1	(0-2)	3	後	救急法の実際を体験し理論を習得し、災害援助の哲学と実際を学ぶ。
選	選	保 I	341	学校保健学	2	(2-0)	3	後	学校における保健管理や保健教育のあり方について学ぶ。
選		保 I	342	公衆衛生看護実践学Ⅱ	2	(1-2)	3	後	地域の生活集団、グループ、地域組織を対象とした健康保持増進のための公衆衛生看護活動を学ぶ。
必		保 I	343	在宅看護実践学	2	(1-2)	3	後	在宅で療養する人々や家族の健康問題、生活障害、終末期ケア等の看護展開に必要な看護技術、社会資源の活用方法、他機関との連携やケアマネジメントなど、在宅ケアにおける看護者の役割及び機能について解説する。また、対象者の健康問題や生活障害をアセスメントし、多様な価値観、生活習慣等を尊重しつつQOLの維持・向上をめざす看護者の知識・技術・態度について学ぶ。
必		保 I	344	在宅看護実習	2	(0-6)	3	後	訪問看護ステーションにおいて、疾病や障害を持つ療養者、終末期にある対象・家族への在宅看護活動に同行し、看護技術の提供、環境整備、療養生活の維持・向上にむけた他機関との連携、ケアマネジャーとの協働を体験する。また、受持ち事例をアセスメントし、課題検討や看護計画立案、評価、修正を通して実践力を養う。
選		保 I	345	助産診断・技術学Ⅰ	2	(2-0)	3	後	周産期医療の現場や少子化社会のニーズに対応でき、的確な判断力と助産技術で自律的に出産や女性の健康に関わる人材として、助産診断技術の基礎的知識を学習する。さらにそれらを科学的に理解し思考する能力、母子やその家族に最も望ましい助産ケアを提供できるための基礎技術を学ぶ。
必		保 I	346	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	前	チーム医療および国際協力に対応できるように、メンバーシップ、リーダーシップ、看護マネジメント、医療安全管理、災害看護、諸外国との協働について学ぶ。
選		保 I	347	健康教育学	2	(1-1)	3	後	健康教育における理論と方法を学び、演習を通して実践力を高める。
選	選	保 I	348	国際保健概論	1	(1-0)	3	後	国際保健の概略を参加型学習法によって体験し学ぶ。日本の保健医療と海外との比較によって社会のなかでの保健医療従事者としての立ち位置を確認する。
必		保 I	349	卒業研究Ⅰ	1	(0-3)	3	後	保健・看護諸分野の研究の基礎（含む研究倫理）、研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
選	必	保 I	350	RⅠ検査技術学	2	(2-0)	3	前	放射性同位元素の基礎原理と臨床検査における利用について学習する。
	必	保 I	351	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	前	分子生物学的手法を用いた各分野の臨床検査について学習する。
選	選	保 I	352	健康食品学	1	(1-0)	3・4	前	保健機能食品の健康とのかかわりを物質代謝レベルで理解し、健康食品の過剰摂取による問題点、安全性と有効性、医薬品と健康食品の相違や相互作用について学習する。
選		保 I	355	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	3	前	女性の生涯を通した性・生殖に関する健康問題への援助を学ぶ。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
選	選	保 I 356	感染看護学	1	(1-0)	3-4	前	医療・保健・福祉などの施設、在宅、地域の場における個人及び集団の特徴を把握して、感染予防、感染症からの治癒・回復の促進、感染防止そして医療安全のための看護の役割について学ぶ。
選		保 I 385	助産診断・技術学Ⅱ	3	(2-2)	3	後	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の経過診断及び健康生活にかかわる診断について学ぶ。
選		保 I 386	助産管理	1	(1-0)	3	後	助産管理の概念と助産業務および管理運営について学ぶ。また、助産業務に関係する法律、災害、リスク・マネジメントと助産師活動について学び、助産師の社会的責務について理解する。
選	選	保 I 403	病理特殊検査法	2	(2-0)	4	前	特殊染色、免疫組織染色の理論、電子顕微鏡の理論とその応用について講義する。
選	選	保 I 404	保健技術英語文献講読	2	(2-0)	4	前	保健技術系各分野のトピックスを外国文献を通して学習する。
	必	保 I 405	保健技術学実習Ⅲ	4	(0-12)	4	前	学内外の総合病院において、実践的検査技術を実習する。
	必	保 I 406	臨床微生物学	3	(2-3)	4	前	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの疾病発症に至る機構、病原性の発揮、薬剤抵抗性機構及びこれら病原微生物の検査法について学ぶ。
	必	保 I 407	小児看護実習	2	(0-6)	4	前	健康に問題のある小児に看護を実践し、小児の健康回復・維持・予防及びQOLの向上に必要な小児看護技術、社会資源、小児病棟管理等について学ぶ。
	必	保 I 408	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	前	慢性期にある成人期対象者に対し、個性性を踏まえ、セルフケア能力を促進させるための看護過程を展開し、看護の実際を学ぶ。
	必	保 I 409	精神看護実習	2	(0-6)	4	前	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助の実際について学習する。
	必	保 I 410	急性期看護実習	2	(0-6)	4	前	周手術期にある成壮年者を受け持ち、患者理解を深めるようコミュニケーション技術、フィジカル・アセスメントを含めた看護実践、事例の看護過程の展開をとおして看護の実際を学ぶ。
選		保 I 411	公衆衛生看護実習Ⅰ	4	(0-12)	4	前	公衆衛生看護学で学んだ理論や方法を、地域住民の生活場において体験し、保健師活動の実践に必要な知識、技術、態度を習得する。
選		保 I 412	助産診断・技術学Ⅲ	3	(1-4)	4	前	助産診断に基づく基礎技術と分娩介助技術・相談技術について学ぶ。
選		保 I 413	助産実習Ⅰ	2	(0-6)	4	前	病院実習を通して、妊娠期の助産ケアに必要な基礎知識・技術を習得する。助産実習を通して分娩期の基本的な診断技術を学ぶ。
	必	保 I 414	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	前	急性期看護実習を基盤に、継続して事例のケーススタディを行い、病棟や外来における看護チーム活動、看護管理の視点から総合的に実習する。
	必	保 I 415	看護統合実習	2	(0-6)	4	後	各領域実習を終えた学生がさらに関心を深めたい領域（基礎・成人・在宅・小児・母性・精神・老年・地域）の中から、自己の課題目標を主体的に設定し、その課題を達成するための実習を行ない、総合的な看護実践能力を養う。
	必	保 I 418	卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	4	前後	研究計画書に沿って研究を行い研究論文の作成ならびに発表を行う。
	必	保 I 419	技術卒業研究Ⅱ	4	(0-12)	4	前後	保健諸分野における調査、実験研究を行い、研究論文の作成ならびに研究発表を行う。

別表 2

保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 番 目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容
選	選	保 I 420	画像診断学	2	(2-0)	4	後	各種の画像検査法の特性及び臓器別に特徴的な疾患の診断について学習する。
選		保 I 421	公衆衛生看護管理	2	(1-2)	4	後	公衆衛生看護実習 I・II の学びを統合するとともに、公衆衛生看護管理の構成要素について学ぶ。さらに、保健師としての専門的自立と人材育成について学ぶ。
選		保 I 422	助産実習 II	8	(0-24)	4	後	助産師として実践に必要な診断技術や分娩助産技術・保健指導技術を習得する。
選		保 I 423	助産統合実習	1	(0-3)	4	後	NICUでの実習を通して、妊娠期からの助産師としての役割を総括して考察する。
必		保 I 424	臨床看護技術の統合	1	(0-1)	4	前	臨地実習における学生の看護技術体験と実践能力自己評価の分析を踏まえ、モデルや模型を活用した演習で臨床看護技術の統合を図る。またコミュニケーション演習や多重課題が発生する状況設定演習により実践的な対応能力を養い、合わせて総合的な看護技術の評価を行う。
選		保 I 425	養護実践演習	1	(0-1)	4	後	養護教諭としての専門的知識と技術の習得をより効果的にすすめるために、養護実習に即して事前指導・中間報告会ならびに事後指導を行う。
選		保 I 426	養護実習	4	4週間	4	後	教育活動全般ならびに学校保健活動（保健管理・保健教育・組織活動）の展開を実際に体験し、養護教諭として学校保健活動を推進していく実践的能力を培う。
選	選	保 I 429	総合検査学	2	(2-0)	3~4	前	各教科の学習によって得られた知識を総合的に活用しながら、臨床検査各分野のトピックや最近話題の疾患について複数の教員が講義し、検査と疾患のつながりを学習する。
選		保 I 430	教職実践演習（養護教諭）	2	(0-2)	4	後	各自の履修カルテをふまえ、実技指導、グループ討論及び補完指導等を通して、養護教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。
選		保 I 480	公衆衛生看護実習 II	1	(0-3)	4	後	地域で暮らす人びとの健康課題の把握および解決方法を習得する。